

「新オフセット前面衝突試験」のデモンストレーションを受けた報道ぶり

令和6年度より、自動車アセスメントの新たな評価項目として「新オフセット前面衝突試験」の評価を開始したことから、実車を使った本番さながらの試験のデモンストレーションを報道関係者に公開するとともに、導入背景についての説明を行う報道公開を次のとおり実施したので、報道ぶりについて報告いたします。

1. 日時：令和6年11月8日（金）
2. 場所：（一財）日本自動車研究所つくば研究所 衝突実験棟
3. 参加報道各社：11社
TV：1社、新聞(地方紙)：1、新聞(専門紙)：1、雑誌等：7、その他：1
4. 報道状況：メディアへの掲載12件（12/2(月)9:00時点）
 - （1）新聞記事：2件 茨城新聞社、日刊自動車新聞電子版
 - （2）Web記事：9件 Car Watch、Yahoo!ニュース、47NEWS、MAGX NEWS、BSRweb 他
 - （3）テレビ番組：1件 テレビ神奈川（NEWSハーバー内）

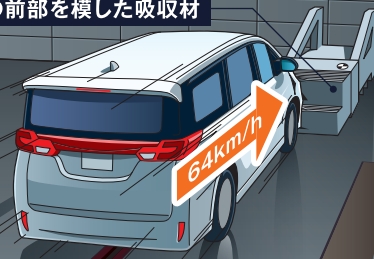
自動車 アセスメントで

国土交通省と
ナスバが行う

新しい衝突試験 2024年度より START!

よりリアルな評価で
クルマ選びにさらなる安心を!

車の前部を模した吸収材



従来の試験

評価対象 “自車のみ”

衝突相手 自車と重量が同等の車を想定

しかし



実際の正面衝突事故

実際の事故 “相手車”にも被害発生

衝突相手 重量が同等の車の他、軽い車も存在

正面衝突等は、我が国の交通死亡事故の約3割を占める事故形態。
衝突事故の実態に即した評価のため、対向車を模した台車と衝突試験を行い、
“相手車”に与えるダメージも確認

新たな試験

評価対象 “自車”+“相手車”

衝突相手 重量が軽い車の存在も考慮した台車

車の前部を模した吸収材

50km/h

詳しくはHPの
新オフセット
前面衝突試験
解説ページを
ご覧ください
https://www.nasva.go.jp/mamoru/assessment_car/crackup_test.html#an01_02



これにより
『共存性能』を評価します!

共存性能とは? 新しい試験の考え方(解説)

- 車同士の正面衝突では、衝突相手の状況により、自車と相手車の被害が異なります。
- 従来のオフセット前面衝突試験では、自車と同じ重量の車と衝突した場合における自車の安全性能についての評価となっていました。実際の事故で重量差があった場合、相対的に軽い車の被害が大きくなる傾向にあります。
- 今回導入する新たな試験「新オフセット前面衝突試験」では、国内で走行する車の平均的な重量と同じ重量の試験用台車と衝突させることで、より実際の正面衝突事故に近い状態で安全性能を評価します。この試験の導入により、衝突時の自車の安全性能だけでなく、相手車に与える被害(加害性)も評価を行えるようになります。
- 今回の新たな試験の導入を通じ、「共存(自車の被害を防ぎ、そして相手車の被害も防ぐ)」という考え方の普及を図るとともに、引き続き、より安全な自動車の普及促進に努めてまいります。
- 英語では「compatibility (コンパティビリティ: 両立性、融和性)」と表現されます。

※イラストはイメージです

国土交通省とナスバ((独)自動車事故対策機構)では、自動車等の安全性能を評価・公表し安全な自動車等の普及を促進する事業として、「自動車アセスメント」を行っております。